

『源氏物語』と紫式部、そして藤原道長

紫式部を主人公とする大河ドラマ「光る君へ」は、随所に『源氏物語』へのオマージュを散りばめながら、新たな物語を展開しています。では、『源氏物語』とはどのような作品なのでしょう。また、藤原道長との関係を紫式部自身はどのように記しているのでしょうか。『源氏物語』と『紫式部日記』の本文を味わいながらお話ししていきます。

1. 12月7日(土) 13:30~15:00

「『源氏物語』の結末

—物語最後のヒロイン・浮舟を中心に—

講師：広島大学大学院人間社会科学研究科准教授
小川 陽子さん

この講座が開催される頃には「光る君へ」も最終盤へ突入していることと思います。では、紫式部が作った壮大な物語はどのような結末を迎えたのでしょうか。『源氏物語』終盤の巻々は、宇治十帖と呼ばれるとおり、藤原道長ゆかりの地・宇治を主要な舞台とします。物語最後のヒロイン・浮舟に注目しながら、宇治十帖の世界をのぞいてみましょう。

2. 12月7日(土) 15:10~16:40

「『紫式部日記』から見る

『源氏物語』と藤原道長」

講師：広島大学名誉教授
妹尾 好信さん

一条天皇の中宮彰子に仕えた紫式部にとって、藤原道長は雇い主でした。『源氏物語』の作者としての文才を買われて出仕することになったと思われますが、実際のところ、道長は紫式部の『源氏物語』執筆にどのように関与したのでしょうか。『紫式部日記』の記事から考えてみたいと思います。そして、二人の本当の関係はどうだったのかも想像してみましょう。

●日時：

12月7日(土)

13:30~15:00

15:10~16:40

(1日2講座)

●会場：

合人社ウエンディひと・まちプラザ
(広島市まちづくり市民交流プラザ)
中区袋町 6-36

●定員：

100人

(定員を超える場合は抽選)

●受講料：

750円(全2講座分)

●申し込み：

「はがき」での申し込みとなります。

(往復はがきではありません。)

※申し込み方法など詳しくは裏面をご覧ください。

●受付期間：

10月1日(火)~10月31日(木)

【必着】

●主催：

(公財)広島市文化財団、
広島市

※申込方法など詳しくは裏面をご覧ください。

